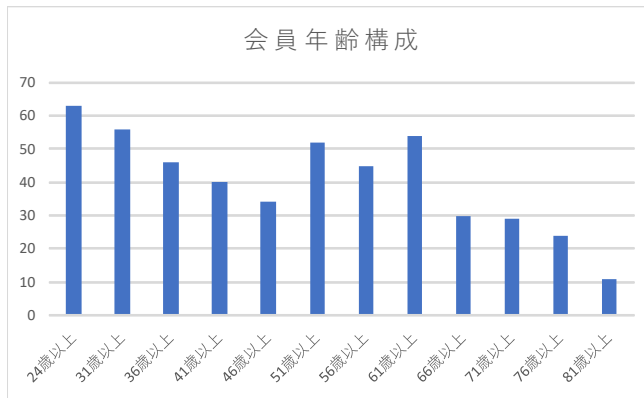




活力

# 会報

●書学書道史学会

第33号

平成29年(2017) 5月15日

編集・発行

書学書道史学会  
会報委員

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F

(株)毎日学術フォーラム内

TEL : (03) 6267-4550

FAX : (03) 6267-4555

メールアドレス:

maf-syogaku@mynavi.jp

澤田 雅弘

創設から四半世紀を経た本学会の年齢構成は、現在どの様であるのか。高齢化はないだろうとは思いつつも、いっと確認しておく必要を感じ、個人を特定できないよう会員の生年だけを切り離れた情報を、委託事務局から得て、自分で可視化してみました。

上のグラフは、生年情報のあつた四八四名について、会員数を縦軸に、今年の誕生日以降の年齢を五歳刻みで示したものです。ただし、八十一歳以上と、二十四歳以上三十歳以下は、それぞれ一括しました。本学会が会員の年齢構成を顧みるのは初めてのことですので、経年変化の状態はわかりません。四十

代後半が少ない理由は精査しませんが、退会者が少ない状況からみて、退会が要因ではありません。その後は若い世代の入会者が順調に増加していることがはつきりしました。学会がつねに活力に満ち、新たな知を開拓していくには、若い研究者の積極的な関わりが不可欠ですから、よろこばしいことで、ひとまず安堵しました。

書の学はそもそも隣接諸学との関わりを多く秘めています。学問と実作とが相互補完しあう書の学の特性は、斯学の強みでありますし、その足場が揺らいではなりません。が、昨今の学問の多様化や価値観の変化に照らして将来を展望しますと、この相互補完の枠組みだけに安住せず、隣接科学に触手を伸ばし、学際において新たな書の学の可能性を開拓し、他分野にとつても価値ある学を樹立する活力も望まれるように思います。

そのためには、若い研究者の育成を促進する必要があります。平成十七年に、「主として、学生・若手の会員に発表の場を設けて、研究の活性化と研究者の育成を図る」目的で、研究発表会の形態で始めた「若手研究会」は、見直しが必要となり、平成二十六年に第九回をもつてひとまず休止しました。これをどのように生まれ変わらせるかが、懸案のひとつです。若い方とも機会あるごとにこの問題を話したいと思っていますが、若い方が新しい着想をもつて、研究会を主体的に立ち上げることもあつてよいと思います。

改善をはからなければならない問題は多々ありますが、役員改選選挙の投票率の低さは深刻です。過去には投票方式や返信方法などの改善を講じてきましたし、選挙管理委員会も繰り返し会員に投票を呼びかけてきましたが、大幅な改善は見られませんでした。抜本的な改革が求められる時期にきたのかもしれない。常任理事会では選挙時期の変更も視野に入れてあらたに検討をはじめました。選挙の投票率の低迷は、学会の平和と安定の反映であるのかもしれませんが、活性化を鈍らせる危険をはらんでいまいしょう。活力あふれる健全な学会であり続けるには、まず会員一人一人が投票の責務を果たすことが重要であろうと思います。

(理事長)

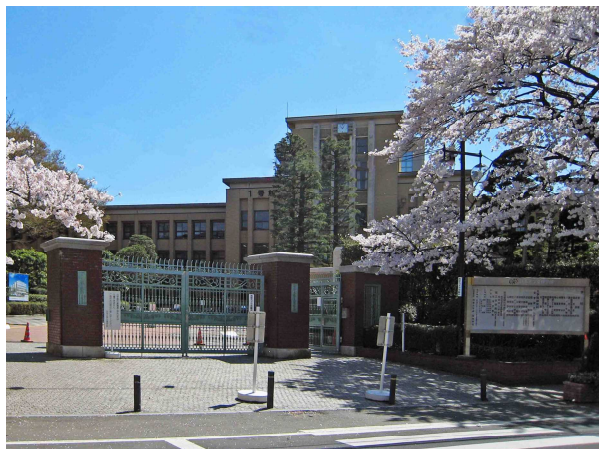
## 第28回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、11月25日(土)・26日(日)の両日にわたり、日本大学文理学部において、開催いたします。

詳細、および参加申し込みについては、10月下旬以降に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともに、ご案内を差し上げます。また、学会HPでも随時お知らせいたしますので、ご覧下さい。現時点での概要は以下の通りですので、ご予定下さると幸いです(一部変更がある場合も)ごさいますので、予めご了承下さい。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



## ○理事会

【11月25日(土)】

11時00分～ 日本大学文理学部3号館(教室未定)

## ○大会

【11月25日(土)】

12時00分～ 受付開始

13時00分～14時00分 日本大学文理学部3号館(教室未定)

14時00分～15時30分 開会式、総会

15時40分～17時10分 研究発表(2～3本)

17時30分～ 講演

17時30分～ 懇親会

於 カフェテリア・チエリー(予定)

【11月26日(日)】

9時00分～ 受付開始

9時30分～11時45分 日本大学文理学部3号館(教室未定)

11時45分～13時00分 研究発表(3～4本)

13時00分～14時30分 昼食休憩

14時50分～16時20分 研究発表(3～4本)

16時20分～16時30分 シンポジウム

16時20分～16時30分 「研究の現場」(仮題)

閉会式

## ○展示企画(予定)

日本大学文理学部資料館「王朝の物語」(仮題)、  
11月25日(土)・26日(日)の両日特別開館。

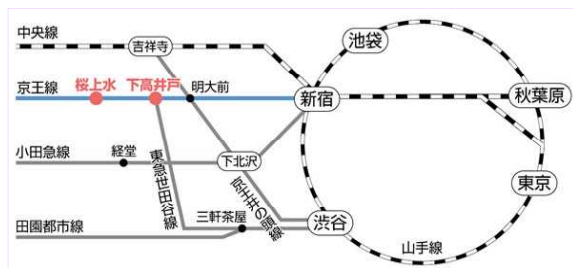
## ○会場へのアクセス

京王線・東急世田谷線「下高井戸」駅、または京王線「桜上水」駅下車、徒歩10分。

\*どちらから京王線「新宿」駅より約10分です。なお、京王線「下高井戸」駅は各駅・快速のみの停車ですのでご注意ください。

## ○宿泊施設について

役員・会員ともに、各自で手配願います。



## 〈お問い合わせ〉

日本大学文理学部国文学科

鈴木晴彦(鈴木研究室)

☎03-5317-8758

メールアドレス hasu171@msj.biglobe.ne.jp

## ◎非会員の大会参加について

第27回大会より、会員が引率する非会員の大会参加費は1名無料となります。

## 第28回 書学書道史学会大会研究発表者募集要項

国内局

今年度の「書学書道史学会大会」は、日本大学(文理学部)において、前掲のとおり開催いたします。会員各位、日頃の研究成果について、意欲的かつ積極的な発表を期待し、左記の要領で募集いたします。

## 記

- ① 発表日時：平成29年11月25日(土)・26日(日)
- ② 発表時間：各30分(発表20分・質疑応答10分)
- ③ 申込方法：電子メールにてお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込(氏名)」と明記し、「所属・氏名・連絡先」を記した上で、発表内容の題目と要旨等をレジメ800字程度にまとめて添付してください。
- ④ レジメ：題目・氏名・要旨・所属の順に明記の上、原則としてワープロ(テキスト形式・ワード形式のいずれか)で作成し、電子メールに添付し送信してください。なおファイルには、必ず題目・氏名・所属を入れてください。
- ⑤ 発表申込締切：平成29年7月31日(月)必着
- ⑥ 発表者の決定と連絡：大会での発表者は常任理事会で8月中旬に協議・決定し、採否を個別にご連絡します。
- ⑦ 10月中旬に「大会のしおり(含レジメ集)」を全会員へ配布します。また、ホームページ上でも公開します。

## ※注記

・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第28号(平成30年度

秋刊行予定)の論文投稿申込があつたものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。

・学会誌への論文投稿締切は、平成30年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は査読委員会において決定されます。

・このほか学会誌関連でのご不明な点は、移転後の新たな事務局である、(株)毎日学術フォーラム内「書学書道史学会編集局」宛にて、電子メールでお問い合わせください。

## 〈発表申込先／問い合わせ〉

【(新)書学書道史学会事務局】

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F

(株)毎日学術フォーラム内「書学書道史学会」

TEL: 03-6267-4550

FAX: 03-6267-4555

メールアドレス maf-syogaku@mynavi.jp



## 各局報告

## 国内局

別項にてご案内いたしました通り、本年度の大会は日本大学(文理学部)を会場として使わせていただけとなりました。担当窓口を鈴木晴彦先生にお願いし、同大学の皆様、また関係会員よりご協力、ご支援をいただきつつ準備を進めております。諸般の事情もあり、例年より少し遅い時期の開催ですが、意欲的な発表ならびに多数のご参加をお待ちしております。

(国内局長 笠嶋 忠幸)

## 国際局

昨今の中国における書の研究は、論文や著作の出版、展覧会やシンポジウムの開催など、実に目覚ましいものがあります。国際局では昨年に引き続き、中国大陸・台湾・韓国・アメリカなどの博物館や美術館で開催される書画に関する展覧会を中心に、さまざまな情報をご案内いたします。また外国からの研究者によるご講演などがありましたら、国際局としても広く周知したいと思っておりますのでご一報ください。

(国際局長 富田 淳)

## 学術局

## J-STAGE

学会誌『書道史研究』のJ-STAGE(ジェイ・ステージ)登載を外部委託することとなりました初回でしたが、例年より早く4月4日に26号を公開いたしました。事務局移転のさなか、同局所管の学会ホームページでもいち早くお知らせいただきました。

ただ、3月末日の公開予定が数日とはいえ遅れたことなど、委託業者との連携のあり方などに反省すべきこともございました。今後円滑にことを進めるべく改善点を含めたマニュアルにまとめ、局内で共有してまいります。

## データベース「学会名鑑」

日本学術会議・日本学術協力財団・科学技術振興機構連携のデータベース「学会名鑑」(左記URL)について、昨年11月に調査項目に回答いたしました、それを反映した内容が2月28日に公開されました。今後機会あるごとに更

新してまいりますので、お気づきのことがございましたら、お知らせください。

<https://gakai.jst.go.jp/gakai/>

(学術局長 森岡 隆)

## 研究局

平成29年度の「研究促進助成金制度」は、多くの会員各位が応募しやすいように「研究促進助成金規程」の一部を改正し、「助成金は消耗品、備品・物品(書籍を含む)購入および旅費・宿泊費に充てる」とし、領収書(物品・旅費・宿泊代等)および行程表の提出を求める。ことになりました。詳細は、「研究促進助成金制度／平成29年度募集要項」「平成29年度書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」がホームページに掲載されていますので、まずご一読下さい。

■研究期間：平成29年度～平成30年度

(平成29年9月1日～平成31年8月31日の2年間)

■研究促進助成金：1件につき30万円(3件まで採択)

■申請受付期間：平成29年6月1日(木)～6月7日(水)

■申請方法：ホームページ掲載「平成29年度書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」(Word形式)をダウンロードし、受付期間内に下記問い合わせ先でEメール(添付ファイル)で申請して下さい。

■問い合わせ先：mat.shogaku@mynavi.jp

■問い合わせ方法：Eメールのみ(「平成29年度研究助成問い合わせ」とご記入下さい。)

なお研究局では、4月に印刷物にてお知らせしたとおり、この「平成29年度研究促進助成金」申請に係る説明会を、下記の要領で開催致します。

○日時：平成29年5月20日(土) 14時～16時

○会場：筑波大学東京キャンパス(119教室) 東京都文京区大塚3-29-1

(東京メトロ丸の内線・茗荷谷駅下車「出口1」より徒歩5分)

○プログラム：挨拶(澤田雅弘)／「研究促進助成金制度」概要について(河内利治)／外部資金に関する現状と本学会会員の研究促進について(菅野智明)／「研究助成金 研究計画書」の記載方法について(永由徳夫)／ミニ講



演(権田瞬一)／司会(角田健一)

○申込締切:5月15日(月)＊当日参加も歓迎します。

○申込方法:mat-shogaku@mynavi.jp(Eメールのみ)

○申込件名:平成29年度 研究促進助成金説明会参加＊氏名・所属・主たる研究業績を明記のこと。

(研究局長 河内 利治)

## 編集集局

昨秋の大会時に開催された第60回理事会において、新たな「学会誌論文査読規定(理事会内規)」の制定と施行が承認されました。今般の内規は、従前の内規で十分に整備されていなかった採否判定の手順について、明確なルールを設けることを主眼に改正いたしました。本内規は、今秋発行の第27号への投稿論文より適用されます。

第27号は、投稿論文の他、昨秋の大会における企画の報告も検討しております。また、「学界展望」については、日本書道史関連の研究動向を中心に準備を進めております。

(編集局長 中村 伸夫)

## 事務局

### 【事務局移転について】

会員各位には、すでに郵便にてお知らせしたように、本年3月末をもって、長年、事務の代行を委嘱してきた大学生協学会支援センターが学会支援事業から撤退することになりました。

学会事務を代行する数社から見積を取り、この度、臨時理事会において協議の結果、4月以降の事務の委嘱を毎日学術フォーラムに委嘱することが適切と判断しました。

今後の連絡等は、新事務局担当の毎日学術フォーラム内書学書道史学会事務局にお願ひできたらと思います。なお、残務処理として、5月中は旧事務局の大学生協学会支援センターでも受理は可能ですが、なるべくお早めの切り替えをお願いします。

(旧)書学書道史学会事務局

〒166-8532

東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内

TEL:03-5307-1175 FAX:03-5307-1196

Eメール shogaku@univcoop.or.jp

\*\*\*\*\*

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
ペレスサイドビル9F (株)毎日学術フォーラム内

TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

Eメール mat-shogaku@mynavi.jp

\*\*\*\*\*

### 〔平成29年度事業・活動計画(案)〕

本来ならば、総会にて承認されるものです。常任理事会および臨時理事会において確認されたものです。おおよその目安として、ここに提示します。変更等も十分ありえますので、ご注意ください。

5月15日 第33号《会報》発行及び発送

7月31日 第28回大会発表申込締切

8月11日 第14期第3回常任理事会(於 大東文化会館)

10月15日 《大会最終案内》《大会レジュメ集》発行及び発送

10月下旬 平成28年度決算会計監査

11月25日 第61回定例理事会(於 日本大学)

11月26日 第28回大会1日目(於 日本大学)

11月初旬 第28回大会2日目(於 日本大学)

12月31日 第27号《書学書道史研究》発行及び発送

1月15日 第28号《書学書道史研究》投稿申請申込締切

2月21日 第34号《会報》発行及び発送

2月25日 第15期役員選挙投票締切

3月11日 第15期役員選挙開票(於 大東文化会館)

3月21日 選挙選出理事による緊急会議(於 大東文化会館)

3月31日 第62回(臨時)理事会(於 大東文化会館)

第28号《書学書道史研究》投稿原稿締切

(事務局長 高城 弘一)

## 事務局よりお願い

## 事務局

## ◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費納入は、6月末日までに「ご納入ください」。なお、平成29年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会(除籍)制」の適用対象となります。ただし、退会(除籍)適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

## ◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員(学生会費適用の方)が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時(学生証の発給対象でなくなった時)に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き(「会員変更申込書」の提出)が必要です。とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は、無記入で結構です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局(㈱毎日学術フォーラム内) Eメール:mat-syogaku@mynavi.jp)へお願いします。

## ◆会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

今年度は、会員名簿発行の年です。個人情報保護の観点から、個人情報の取得や管理についての取り扱いについては、事務局(㈱毎日学術フォーラム内)と十分協議をしています。同封の依頼書にしたがって、情報提供をお願いします。

## ◆次回理事会のお知らせ

過日(平成29年3月19日)開催の常任理事会において、第14期第3回常任理事会を8月11日(祝・金)に開催することが決定しました(常任理事会13時から)。役員各位におかれましては、何とぞご出席くださいますよう、今のうちにご予定おきいただきたくお願いします。

なお、開催場所については、大東文化会館(東京都内・最寄駅:東武東上線東武練馬駅)を予定しておりますが、詳細が決定次第、改めてメールにてご案内を差し上げます。

## 新入会員紹介

## 事務局

(一般会員)  
(学生会員)

|        |            |
|--------|------------|
| 早川 桂央  | 改善高等学校     |
| 海老 隆成  | 大東文化大学大学院生 |
| 金澤 智尚  | 二松學舎大学大学院生 |
| 神戸 雅史  | 大東文化大学大学院生 |
| 小西 優輝  | 大東文化大学大学院生 |
| 齋藤 堯   | 大東文化大学大学院生 |
| 椎名 正悟  | 筑波大学大学院生   |
| 蘇 浩    | 関西大学大学院生   |
| 高橋 遥   | 大東文化大学大学院生 |
| 田中 春菜  | 大東文化大学大学院生 |
| 谷口 成孝  | 大東文化大学大学院生 |
| 丁 磊    | 佛教大学大学院生   |
| 藤川 明梨  | 筑波大学大学院生   |
| 三井 忠大  | 大東文化大学大学院生 |
| 三宅 厚史朗 | 大東文化大学大学院生 |

※平成28年10月〜平成29年4月に申請された方(五十音順)

## 平成29年度研究費本関係者採択一覽

## 事務局

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者とを併記した。なお、所属の後の数字は、平成29年度のみの補助金の配分額、計画額には※を付した。

基盤研究(A) 継続(平成28) 日本における「生き物供養」何でも供養」の連環的研究基盤の構築 永由徳夫(群馬大学)※代表・井手誠之輔(九州大学)4,200千円

基盤研究(A) 継続(平成28) 日本における「生き物供養」何でも供養」の連環的研究基盤の構築 永由徳夫(群馬大学)※代表・井手誠之輔(九州大学)4,200千円

基盤研究(B) 継続(平成26) 多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究 赤尾栄慶(京都国立博物館)※代表・宇都宮啓吾(大阪大谷大学)0千円

基盤研究(B) 継続(平成26) 概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開―構文と文法範疇の相関的変遷の解明 大西克也(東京大学)3,240千円

基盤研究(B) 継続(平成26) (Multi-disciplinary Approach)による戦国秦漢期新出土資料研究 大西克也(東京大学)※代表・谷中信一(日本女子大学)5,070千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 海外敦煌書儀・六朝尺牘文獻の古代日本への受容実態の解明 小林比出代(信州大学)※代表・西一夫(信州大学)4,810千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 脳生理学的知見を取り入れた芸術教育における感性育成プログラムの開発 小林比出代(信州大学)※代表・齊藤忠彦(信州大学)2,860千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 年号勘文資料の研究基盤の構築 近藤浩之(北海道大学)※代表・水上雅晴(中央大学)3,240千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究 富田淳(東京国立博物館)※代表・関紀子(東京国立博物館)1,820千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 南北朝・隋代における造像銘の調査及び史料集成とその総合的研究 宮崎洋一(広島文教女子大学)※代表・佐藤智水(龍谷大学)3,510千円

基盤研究(B) 継続(平成28) 東アジア美術における仏伝の表象板倉聖哲(東京大学)※代表・稲本泰生(京都大学)3,900千円

基盤研究(B) 継続(平成28) 隋唐「仏教社会」の多元的構造の解明と東アジア文化論の構築 氣賀澤保規(明治大学)3,900千円

基盤研究(B) 継続(平成28) 運動の「ぎこちなさ」を要因とする書字困難児に対する早期支援プログラムの開発 齋木久美(茨城大学)※代表・勝一博(茨城大学)4,200千円

基盤研究(B) 継続(平成28) 中国道教における聖地と巡礼に関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学)4,810千円

基盤研究(B) 新規 近代東アジアにおける「書壇」形成の地域比較研究 菅野智明(筑波大学)3,900千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 書の芸術性に関する術語と現代学者の解釈との比較研究 河内利治(大東文化大学)1,280千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 学習者の実態調査に基づく左利き者に有用な書写教材及び授業開発に関する基礎的研究 小林比出代(信州大学)600千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 漢字文化圏における骨と亀トに関する総合的研究 近藤浩之(北海道大学)910千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 筆記具の持ち方の指導法改善に関する基礎的研究 日本と欧州の比較を通して 鈴木慶子(長崎大学)※代表・小野瀬雅人(聖徳大学)1,060千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 『和漢朗詠集』諸本の集成と研究 山本まり子(お茶の水女子大学)1,010千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 日中韓における書教育に関わる教員養成モデルの構築―現状の比較・分析を通して― 加藤泰弘(東京学芸大学)1,090千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 植民地期朝鮮の職業書芸家における「書」認識に関する研究 金貴粉(大阪経済法科大学)1,490千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 読み書き指導に関する幼・小連携カリキュラムの開発 齋木久美(茨城大学)1,560千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 『三國志演義』二十四巻系後期諸本の研究 中川論(大東文化大学)910千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 日本近代書道史再考―美術・教育制度・言語施策の構築を視野に入れて― 中村史朗(滋賀大学)800千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 中国中世石刻資料から見る水運と埋葬の連鎖 東賢司(愛媛大学)1,430千円

基盤研究(C) 継続(平成28) ICT教育推進のための小学校国語科書写における毛筆動画教材及び授業開発 樋口咲子(千葉大学)2,860千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 筆順変遷過程の資料化を図るための基礎的研究 松本仁志(広島大学)910千円

基盤研究(C) 継続(平成28) 日本語表記に使われる文字の由来、特質等を理解させるための視聴覚教材の開発 I 和田圭壮(福岡教育大学)※研究分担者・鈴木慶子(長崎大学)3,120千円

基盤研究(C) 新規 北朝隋唐碑における鐫刻実態に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学)1,390千円

基盤研究(C) 新規 中・近世書論を基盤とする「日本書論史」の構築 永由徳夫(群馬大学)1,300千円

基盤研究(C) 新規 『蒼頡篇』を中心とした秦漢簡牘文字に関する基礎的研究 福田哲之(島根大学)600千円

基盤研究(C) 新規 清朝皇帝による「書文化政策」の実態と清代書文化の変容 増田知之(安田女子大学)1,690千円

基盤研究(B) 新規 日中比較による中国写字書法教育史の基礎的研究―中華人民共和國建国を起点として― 草津祐介(都留文科大学)600千円

挑戦的萌芽研究(平成27) 行為と形象の間―近代の書における「臨書」の諸相をめぐる考察 董のり子(大阪教育大学)660千円

挑戦的萌芽研究(平成27) 『説文解字』における字体の定例 山元宣宏(宮崎大学)780千円

奨励研究 新規 名目筆資料の分析による平安時代文字表記意識の共時的研究 家入博徳(神奈川県立弥栄高等学校)3,010千円

## 談 話 室

## 華東師範大学にて

井田 明宏

二〇一七年三月、上海の華東師範大学での語学研修に参加しました。授業では中国語を学びましたが、それ以外では様々な交流がありました。

華東師範大学にも書を専攻する学部があります。私は一緒に研修に参加した友人と共に、その研究室へ伺いました。日本人が来るのが珍しいようで、部屋へ入るなり席上揮毫を依頼されました。現地の学生と一緒に『祭姪文稿』を臨書しましたが、三者三様、個性の違いをはつきりと感じました。「日本と中国では表情が異なるけれども、日本のものもいいですね!」と言われ、大変嬉しかったことを思い出します。

たつた三週間の滞在でしたが、大変有意義な経験となりました。もつと中国にいたい、そう感じた研修でした。

## 子ども達の識字について

佐藤 淳

世界では、一・二億人の子どもの読み書きできずにあります。書に携わる一人として、識字(リテラシー)について注視し世界中のロータリークラブの仲間と)の問題解決に取り組んでいます。

これまで、識字率向上の取り組みといえ、一学校を建設する「就学を妨げる要因をなくす」「書籍を提供する」等、子どもたちが学校に通うための支援が中心でした。

しかし、持続可能な教育のためには、授業で教える側の力を伸ばすことが不可欠です。まる暗記や書き取りではなく、子どもの思考力を高める授業の方法が肝要です。

冒頭「できずにいます」と記したのは、「できるようになりたい」という子ども達の切なる願いを込めました。書道を紹介して文字を表現する楽しさや文字の美しさも伝えたいと思っています。

## 鄭灼『禮記子本義疏』について

関 俊史

私が在籍する早稲田大学には二件の国宝が所蔵されており、そのうちの二つが鄭灼『禮記子本義疏』である。今回、中央図書館開館25周年を記念して4月当初まで展示されていた(図版は早稲田大学古典籍総合データベース参照)。鄭灼は陳の人で、皇侃の門人であった。これは皇侃が記した『禮記義疏』に鄭灼が加筆したものであり、肉筆本の孤本である。これについては羅振玉が鄭灼の自筆本と見なした(六朝寫本禮記子本義疏殘卷跋)が、現在ではそ

の伝来から唐代写本と考えられている。これには楷・行書の内に突如として草書体が混在する様態(子母体)が僅かに認められ、この様態は陸東之『文賦』などの他の唐代写本とも共通する特徴である。これまでの経学的な研究が行われたが、書法的見地からの研究の必要性を感じた。

## 雑筆

前川 知里

最近、平成二十二年に毎日書道会から発行された『松井如流 書・学一如の生涯』を頻繁に読み返している。これは如流の生誕百年を記念して、第六十二回毎日書道展特別展示として如流の作品群が陳列された際の展覧会図録である。如流の作品も然る事ながら、後半の如流の書論により一層感銘を受ける。書論に見える如流の書への眼差しには、今日の我々の書に対する感覚が形成されていく過程が散見される。

周知の通り、如流は明治三十三年の生れであり、戦中・戦後の動乱期を生き抜いた世代の人である。そのような時代での活動は行方を見えない仕事であっただろう。しかし、だからこそその楽しみもあり、また新たなものが生まれていくのではないだろうかと思いを巡らせながら、今日もまた本を手取るのである。

## 編集後記

◆今春もまた、新しい環境に身を投じ、早くも新緑の季節を迎えました。今年度は母校の日本大学で大会も開催されますので、一層尽力してまいります。(金子 馨)  
◆3月、急勾配のケープルカーに乗って金剛峯寺に初めておまいりしてきました。天下の霊場は今なお荘厳で凛とした緊張感に包まれていました。ごま豆腐の優しい味に癒されました。(亀田絵里香)

◆早稲田大学會津八一記念博物館に狩谷掖斎の墓碣を見に行きました。東日本大震災で倒壊し、大きく五つに分断され、その後修復を施したとのことでした。改めて近世の金石の儚さを感じた次第です。

(田村南海子)

◆季節柄実家の庭には、山吹と藤がキレイに並んで咲いており、思わずカメラを向けることがあります。どちらも『和漢朗詠集』では「春」の最後の題にあたり、夏が近づいているのだなと感じます。(野中直之)  
◆縁あつて花押の歴史や作成方法について調べてみましたが、大切なポイントが解ったような誤魔化されたような不思議な気分です。書論を初めて読んだ時も同じような気分でしたね。(小川博章)